



松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪の句に「梅一輪  
いちりんほどの あたたかさ」がある。寒中に  
咲く一輪の梅に、春を待ちわびる人々の心を詠  
んだのだろうか。厳しさに耐えた人生の春にも  
通じる。

そんな梅一輪に思いをはせて借楽園を訪れ  
た。日脚は冬至のころに比べると10分ほど伸び  
たが、外は寒い。つぼみはずいぶん膨らんでい  
たが、開花はまだ先のようだ。しかし、管理事  
務所によると今年の梅は1カ月ほど早いとい  
う。確かに「八重寒紅」がピンクの花をつけ始

2016.1.10

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

梅一輪



めていた。まさに梅一輪の風情だ=写真。

一般に梅や桜などの樹木は、前年の夏季に新  
しい花芽をつけて休眠に入るが、冬を迎えて気  
温がある一定値より下がると、休眠から目覚め  
てつぼみが膨らみ始める。「休眠打破」と呼ば  
れる。桜の打破はかなり低温にならないと起き  
ないが、梅はそんなに冷えなくても良いので打  
破が早く、桜より先に咲き始める。

かつて札幌で勤務した折、梅と桜が5月の大  
型連休と一緒に満開となり驚いたが、両者の打  
破の気温の相違と北国の天候という自然の業  
だ。

このところ予想どおり暖冬が続いているの  
で、梅の開花も間もなくだろうか。梅たちよ、  
2月20日からの「水戸の梅まつり」まで開花を  
急がないでと祈りつつ、帰途に就いた。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



1月15日は「小正月」と呼ばれ、旧年の「し  
め飾り」などが神社や「どんど焼き」で始末さ  
れる。しめ飾りには子孫の繁栄を祈る葉つきの  
橙(だいたい)も添えられる。一説によると、  
しめ飾りは、気象現象の象徴だという。しめ飾  
りの「しめ縄」は雲を、半紙の紙垂(かみしで)  
は雷を、垂れ下がる藁(わら)は雨を表すとい  
う=写真。確かに自然は雲を生み、雨を降らせ、  
雷を起こす。するとしめ飾りは、人々が年の初  
めに、繁栄や幸せとともに稲を育む雨を望み、  
雷のような嵐を免れて、五穀豊穰(ほうじょう)

2016.1.17

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

小正月



を迎えたいと願った証しだろうか。

さて今年の天候はどうなるだろう。農家なら  
ずとも気になるところ。気象庁では種々の天気  
予報を行っているが、日本の天候を左右する「エ  
ルニーニョ」を見るために「大気・結合モデル」  
を運用し、半年先までの予測も行っている。

このモデルによると、これまで暖かい天候を  
もたらしてきた大本のエルニーニョは、すでに  
ピークを過ぎ、今後は次第に基準値(過去30年  
の平均)に近づき、春から夏の間には平常に戻  
ると予測している。春はまだ暖かい天候に恵ま  
れるが、その後は普通の夏に戻ることを意味し  
ている。

昨年は常総市などで洪水災害に見舞われた。  
今年こそは穏やかな天候とたわわに実る秋を迎  
えたいものだ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)